

クロミフェン療法(クロミッド)内服薬

卵胞を刺激するお薬です。生理3～5日目より5日間、1日1錠または2錠内服します。長期的に使用するとおりものの減少や子宮内膜が薄くなるといった副作用が出るがありますが、数周期で元に戻るため、過度な心配はいりません。4つ以上の卵の発育を認める場合は、卵巢過剰刺激症候群(OHSS)、多胎妊娠のリスクがあるため、避妊していただく必要があります。hcg注射またはブセレキュア、または両方使用にて排卵誘発を行う場合があります。

シクロフェニル療法(セキソビット)内服薬

クロミッドに比べ、排卵誘発の作用は弱いですが、副作用は少ないです。生理5日目から1日6錠を5～10日間内服します。軽度生理不順の方に使用します。

レトロゾール

クロミッドと似た作用機序により、卵胞を刺激する薬で、生理3～5日目より5日間、1日1錠または2錠内服します。血中半減期が短いため、クロミッドに比べ副作用が少なく妊娠率が高いといわれています。本来は乳がん患者様に使用する薬のため、我が国では排卵誘発剤として保険適応外(1日1錠5日分5,000円/1日2錠5日分7,000円/追加の場合1錠400円)であり、また、胎児・新生児への影響は詳しくわかっていません。HCG注射にて排卵誘発を行う場合があります。

HMG 注射

ヒト尿由来の性腺刺激ホルモンの薬剤で、FSHとLHというホルモンを含有しています。内服薬で卵胞発育が遅い場合に数回の注射をして卵巢を刺激します。4つ以上の卵の発育を認める場合は、卵巢過剰刺激症候群(OHSS)、多胎妊娠のリスクがあるため、避妊していただく必要があります。HCG注射にて排卵誘発を行う場合があります。

PureFSH 製剤(ゴナールエフ、フォリスチム)注射

内服薬で排卵しない場合に使用します。少量の連日自己注射から開始し、卵胞の発育、卵巢過剰刺激症候群になっていないかを注意深く観察しながら徐々に増量して3個以内の排卵を目指します。妊娠率も高いため本法は推奨される方法ですが、注射する期間が2週間以上かかる事や、通院回数が多いこと、費用が高いことが難点です。4つ以上の卵の発育を認める場合は、卵巢過剰刺激症候群(OHSS)、多胎妊娠のリスクがあるため、避妊していただく必要があります。排卵誘発が必要です。またHCG注射には、子宮内膜が受精卵を着床しやすい状態にするように作用する働きもあるといわれています。

ブセレキュア(自費1本12000円)

タイミングやAIHに合わせて排卵を促す排卵誘発の効果があります。排卵を誘発するために短期的に使うのであれば、副作用の心配は余りありませんが、長期的に使う場合には様々な副作用が出るので注意が必要です。女性ホルモンのエストロゲン低下による胸の張りや脱毛、ほてりなどが現れることがあります。また、稀にはありますが重大な副作用として、アナフィラキシーやうつ症状、狭心症、不正出血、肝機能障害などが現れる場合があります。HCG注射と比較して卵巢過剰刺激症候群のリスクが低い可能性があります。排卵が不確実の場合はHCG注射も併せて使用することがあります。黄体ホルモン補充療法(HCG注射、デュファストン内服、ルトラール内服)などのルテアルサポートの必要性があります。

HCG 注射

成熟した卵胞に働きかけて、排卵を誘発する効果があります。HCGが投与されてから、おおよそ24～36時間後に排卵が起きます。

デュファストン

プロゲステロンという黄体ホルモンを補う為の薬で、子宮内膜を充実させ、受精卵が着床しやすい状態にします。デュファストン自体には体温を上げる作用はないため、自身の黄体ホルモンの補助的役割を果たすだけの働きとなります。副作用として、吐き気や嘔吐、乳房の張りや痛み、頭痛が起こることがあります。

ルトラール

プロゲステロンという黄体ホルモンを補う為の薬で、子宮内膜を充実させ、受精卵が着床しやすい状態にし、基礎体温の上昇作用があります。副作用として、吐き気、嘔吐、乳房痛、頭痛があります。

カバサール

乳汁分泌ホルモンの働きを抑え生理不順を改善するお薬です。副作用として吐き気や嘔吐、頭痛を認めることがあります。

ユベラ

微小循環を改善するお薬です。子宮内膜の血流を増加させ子宮内膜が厚くなることや、また、黄体機能が改善すると言われています。

メトホルミン(グリコラン)

メトホルミン併用投与とクロミフェン単独投与の比較において、排卵率76.4%、26.4%、妊娠率27.4%、3.8%と、メトホルミンの併用が極めて効果的であることが示されています。妊娠までの連日投与がなされます。造影剤を使用する際は内服中止を。